

資料館だより

第52号

平成23年(2011)
3月15日 発行



← 板戸全体

→ 三河万歳

→ 獅子舞



← 左：落款 右：揮毫

「吉川緑峯画板戸絵」：武蔵村山市立歴史民俗資料館所蔵

この板戸絵は、指田和明氏から寄贈された資料で、障子張りの格子欄間を挟んだ上に「三河万歳」が、下に「獅子舞」が描かれていて、獅子舞の右横には「時歳七十有二 緑峯 落款」と揮毫が印されている。当然、板戸はもう1枚以上存在していたはずであるから、今後の発見が期待される。

吉川緑峯は、文化5年(1808)9月、入間郡二本木西久保(現埼玉県入間市宮寺)に生まれ、幕末から明治時代にかけて多摩郡・入間郡を中心に活躍した画家で、77歳(明治17年)で没している。70歳は明治10年(1877)であり、この板戸絵は晩年の作である。

指田和明氏は、武蔵村山市指定文化財である「指田日記」を書き残した陰陽師「指田摂津正藤詮」の末裔である。「指田日記」には、慶応年間以降、緑峯が度々立ち寄った記載があり、「神農ノ像ヲ画ス」「緑峯与鴻齋(藤証の子)兩人、東京ニ行ク」等の記述が残されていて、指田家と吉川緑峯との親密さを伺うことができる。

「市内に残る古墳時代集落群の一様相」

—市立歴史民俗資料館のある谷周辺に展開する古墳時代集落について—

武蔵村山市立歴史民俗資料館 高橋 健 樹

1. 武蔵村山市の遺跡分布

既に、資料館日より第 44 号等で紹介したとおり、現在、武蔵村山市内の周知の遺跡は 40 か所を数える。

武蔵村山市域は北側 1/4 に狭山丘陵が存在し、武蔵野台地が南側に広がっている。遺跡はその丘陵先端部に集中して分布する傾向にあり、市域の 80% を占める台地平坦部では全体の約 1/3 と希少で、遺跡の規模においても丘陵部と台地平坦部との差が明確である（第 1 図）。

丘陵部に展開する遺跡は、歴史民俗資料館から西側では都立野山北・六道山公園によって保護され、東側ではその大部分が雑木林として残されていて、都立中藤公園や観音寺緑地などの対象地であること、市街化調整区域であることなどから、ほとんどの遺跡が手付かずのままで保存されている。そのため、遺跡の詳細は表探調査や公園整備等による小規模調査などの結果に頼る部分が多い。また、台地平坦部に点在する遺跡については、範囲・詳細確認のための試掘（確認）調査を 30 年弱継続して実施し、全体像が理解できる程度の情報は入手できており、その結果、遺跡の範囲

が当初よりも縮小する傾向が見られる。

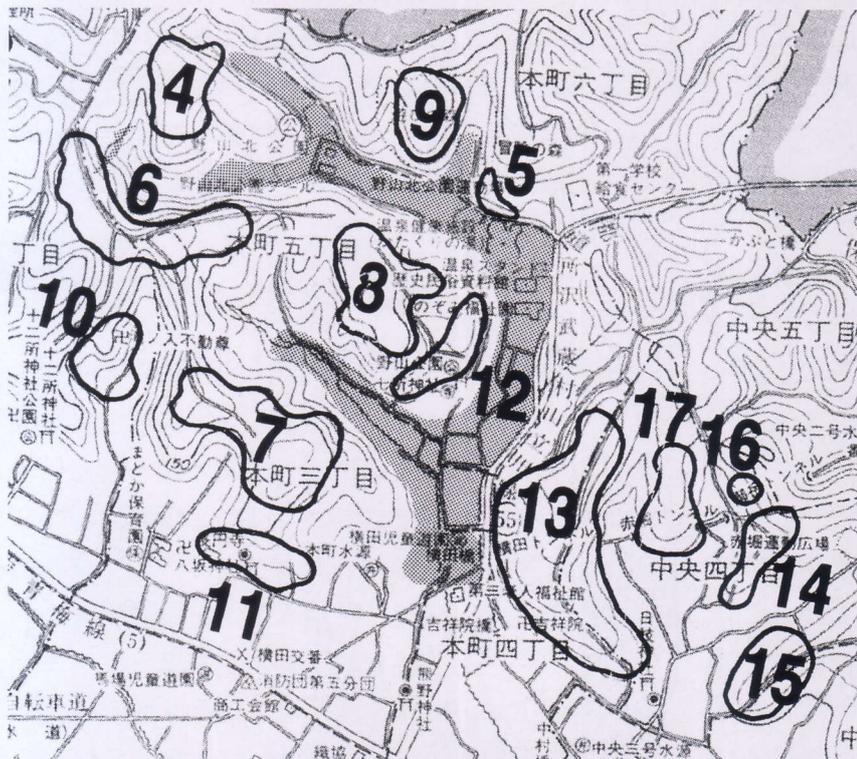
これらのうち、特徴的な遺跡としては、台地平坦部に位置し、ナイフ形石器類が出土した久保遺跡（No.23、第 1 図参照、以下同じ）や念仏塚第 1 遺跡（No.34）、丘陵部の都立野山北・六道山公園内に位置する縄文時代早期^{よりい}燃系文期の住居址を検出した野山第 3 遺跡（No.6）や野山第 5 遺跡（No.8）、古くから縄文時代晩期の遺跡として有名な吉祥山遺跡（No.13）、市内最大規模の屋敷山遺跡（No.18）、台地平坦部の久保の川北に位置する集石炉（屋外炉）を検出した御伊勢前遺跡（No.32）、市内唯一の低湿地遺跡である後ヶ谷戸遺跡（No.38）などが挙げられる。

2. “横田田んぼ” を取り巻く古墳時代の集落

歴史民俗資料館は、市域中央部北側、狭山丘陵に挟り込んだ“横田田んぼ”の奥に位置している。この“横田田んぼ”は、南側に開いた南北方向の大きな谷戸を形成していて、中央部で西側に伸びる“横田谷戸”と奥部のやはり西に延びる“野山谷戸”を併せて、武蔵村山市としては規模の大きな水田を形成していた。この地は、江戸時代の寛文期（1661～1672）にこの水田の生産力を背景に



第 1 図



第2図 横田田んぼ周辺遺跡分布状況 (アミ部：横田田んぼ)

横田村が中藤村から独立している。

そして、この“横田田んぼ”を取り巻く吉祥山や野山などの丘陵上と端部には、前出した吉祥山遺跡 (No.13) をはじめ、滝の入遺跡 (No.10)、野山第3～6遺跡 (No.6～9)、七所神社遺跡 (No.12) 等が分布している (第2図)。

これらの遺跡の特徴は、古墳時代、特に後期の住居址が多く確認されていることである。

吉祥山遺跡は、“横田田んぼ”の東側に位置し、南に延びる長い舌状の台地に存在しており、吉祥院墓地拡張を契機に遺跡の全体像を把握することを目的として、遺跡全域の10%程度の確認調査を実施し、縄文時代中期の環状集落などを確認している。古墳時代についても中期5軒、後期4軒、計9軒の住居址が確認されていて、集落形成が想像される。

野山第5遺跡 (No.8) は、“横田田んぼ”の西側に位置する不正楕円形の丘陵平坦部の都立野山北・六道山公園内に存在し、遊具設置予定場所に対する確認調査の結果、古墳時代住居址5軒 (中期1軒、後期4軒) を中心に、奈良時代・平安時代住居址各1軒などが検出されている。吉祥山遺跡同様、全面調査していないため全容は不明であるが、古墳時代に集落が形成された可能性は高い。

野山第3遺跡 (No.6) は、野山第5遺跡の西側にある馬の背状の丘陵上に東西に長く延びる遺跡で、横田谷戸に面する東南方向の緩傾斜面に大型の古墳時代後期の住居址が1軒検出されている。

滝の入遺跡 (No.10) から古墳時代後期の住居址が1軒確認されている。ここは、“横田たんぼ”の西に南北方向の細長い谷戸が開析されていて、その先端近くに位置するこの住居址は、丘陵部ではなく谷戸面まで下がった平坦面に構築されていた。

野山第6遺跡 (No.9) から古墳時代後期と思われる4軒の住居址 (1軒は古墳時代後期～奈良時代の可能性がある) が、丘陵緩傾斜面から確認されていて、この他にやはり緩傾

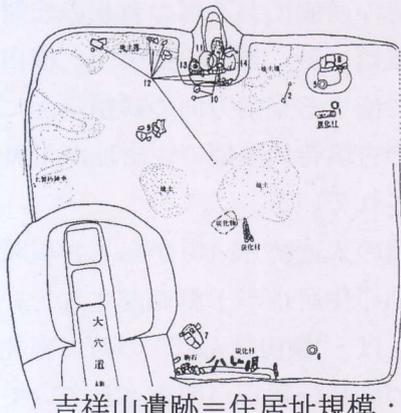
斜面の土砂崩れした場所から小学生が完形の長甕 (鍋や釜) と甑 (蒸し器) を掘り出している。この2点とも古墳時代後期の土器で、焼土が付着している様子からもカマド付近にあったものと考えられ、住居址の存在が想定できる。

以上の結果から、この“横田田んぼ”周辺には古墳時代後期住居址が、併せて12軒ほど検出されている。遺跡が全面調査されていないことを考慮すれば、実際はかなりの数になるであろう。しかし、小規模ながらも集落が形成できそうな遺跡は吉祥山遺跡及び野山第5遺跡くらいで、他は単発的に点在する形で住居址が営まれていると思われる。遺跡ごとの独立した生活形態ではなく、前述した江戸時代のように、“横田田んぼ”を中心とした地域全体で一つの集落が形成していたのではないだろうか。

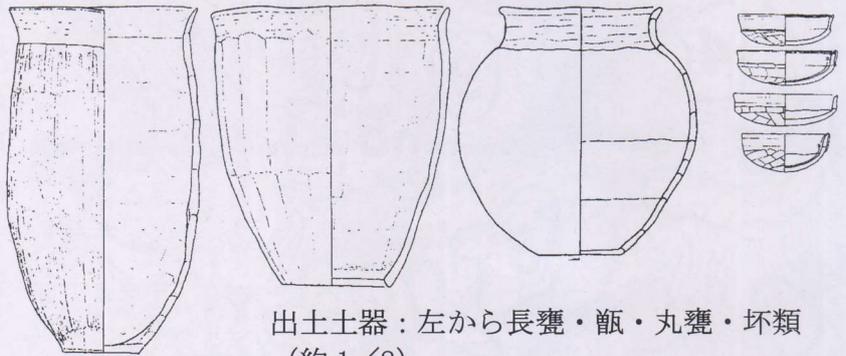
3 古墳時代後期住居址の様相

古墳時代は、各地に「古墳」と呼ばれる土を盛り上げた墳墓が造られる時代で、一般的には3世紀後半～7世紀後半までの400年間で、前期 (3世紀後半～4世紀末)・中期 (5世紀初頭～5世紀後半)・後期 (5世紀後半～7世紀後半) の3期に区分されている。

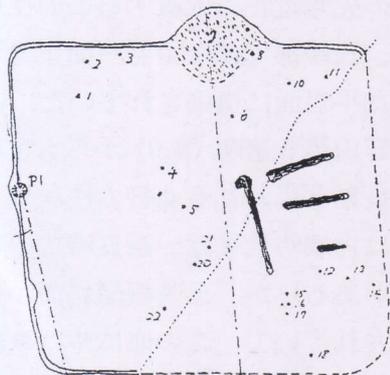
<各遺跡の古墳時代住居址と出土遺物(第3図)>



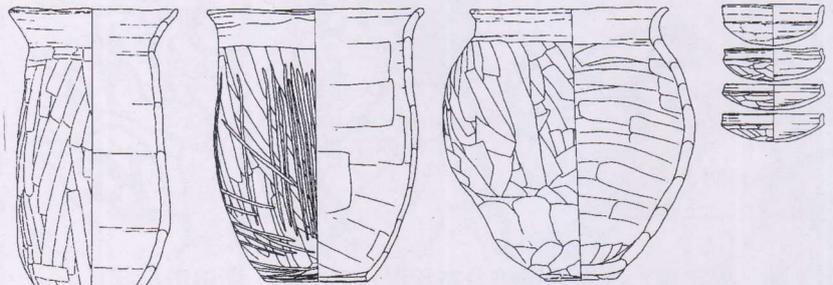
吉祥山遺跡=住居址規模：約 5.0×5.0m



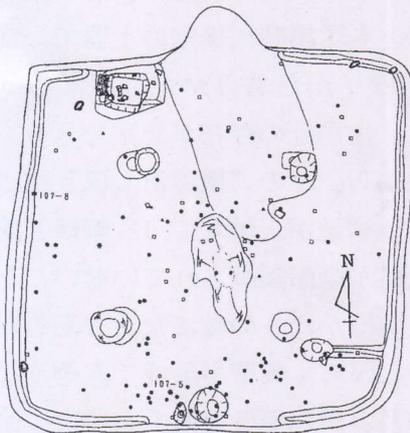
出土土器：左から長甕・甑・丸甕・坏類
(約 1/8)



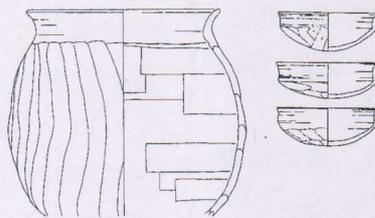
滝の入遺跡=住居址規模：約 5×5m



出土土器：左から長甕・甑・丸甕・坏類 (約 1/8)



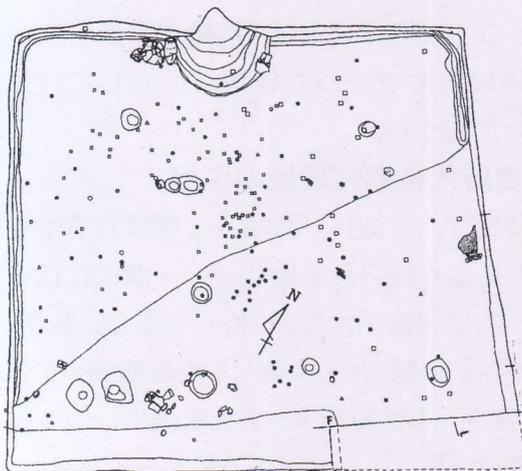
野山第5遺跡=住居址規模：約 5.5×5.5m



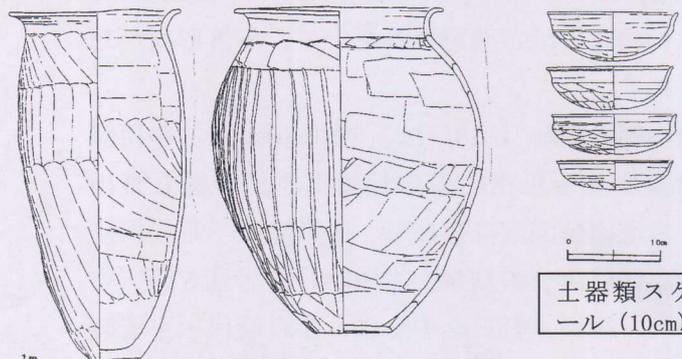
出土土器：左から丸甕・坏類
(約 1/8)

住居址：形態が方形で、北壁中央にカマドを構築する同一の特徴を持つ。大きな違いは、吉祥山、滝の入、野山第5遺跡の住居址はほぼ同規模であるのに対して、野山第3遺跡の住居址は一回り大きい。

土器類：長甕・甑・坏類は、ほぼ同形態・同規模であるが、丸甕については、長胴ぎみのものが確認できる。



野山第3遺跡=住居址規模：約 6.5×6.5m



住居址スケール (1m)

出土土器：左から長甕・丸甕・坏類
(約 1/8)

土器類スケール (10cm)

4 狭山丘陵の古墳時代後期（第3・4図）

古墳時代後期の様子を周辺地域で見てみよう。武蔵村山市域では、前述した以外に後ヶ谷戸遺跡（No.38）、屋敷山遺跡（No.18）、中道遺跡（No.25）、細田第2遺跡（No.3）などから古墳時代の土器類が検出されているが、これらの遺跡からは住居址の確認はない。

狭山丘陵南側に目を移しても、瑞穂町では、狭山遺跡から中期を中心としてかなりの数の土器類が検出されているものの、この一遺跡だけである。また、東大和市からの検出例はなく、東村山市においては古墳時代の遺跡として37ヶ所が確認されているものの、日向遺跡及び下宅部遺跡から古墳時代住居址が数軒（3軒以上）確認されたのみで、集中的な検出はない。

狭山丘陵北側に目を移すと、様相はかなり異なっている。狭山丘陵北東側を中心に、所沢市の日向遺跡、宮前遺跡、高峰遺跡などからは20軒を超える住居址が検出されていて、数軒から10数軒の住居址が確認されている遺跡が10か所を超える。さらに、海谷遺跡（3基）、膳棚東遺跡（2基）、村中遺跡（1基）、山下後遺跡（3基）からは、首長墓と思われる円墳9基が検出されていて、丘陵北東部にかなりの規模のムラが構築されていたことが判明している。

もともと、丘陵北東側には弥生時代後期の集落

と方形周溝墓が検出されており、古くから狭山丘陵における中心的な地域であって、それが古墳時代まで継続されたのであろう。

この大規模なムラから丘陵南側に古墳時代人が移動する場合は、東西の丘陵縁辺部を迂回するルートが考えられ、瑞穂町や東村山市域の遺跡の存在は納得できる。ならば、横田田んぼ周辺域はどのルートを使用したのであろうか。

おそらくそれは、現在は貯水池に水没してしまっている“山口ー根古屋ー大ぬかりー横田”のルートであろう。このルートは丘陵中央部に南・北両側から深く谷戸が入り込んでいる場所で、貯水池建設までは所沢（山口経由）に抜ける主要道路であった。特に、ルート“山口ー根古屋”の北側には、前出した日向遺跡、宮前遺跡、海谷遺跡、高峰遺跡が東西に並ぶように位置し、また、中世においても、川越と二宮（あきる野市）を直線的につなぐ重要な間道として使用された可能性が高いとの説もある（資料館だより第42号参照）。丘陵北東部の古墳時代人も、容易にこの谷戸を越えて“横田田んぼ”周辺に開発の手を広げてきたのではないだろうか。

5 古墳時代以降の“横田田んぼ”周辺

“横田田んぼ”周辺の古墳時代後期住居址は、6世紀後半～7世紀中頃に位置付けられるが、それ以後、ほとんど住居址は構築されていない。野



第4図 狭山丘陵周辺の古墳時代後期遺跡分布図（“…”は、山口ー根古屋ー大ぬかりー横田推定ルート）
（武蔵村山市史通史編「上巻」図Ⅱ-59 狭山丘陵の古墳時代後期の遺跡分布に加筆）

山第5遺跡から確認された奈良時代住居址は、1軒のみで、土器類もほとんど検出されていない。

この傾向は、狭山丘陵南側にも広がっていて、東山道に近接する東村山市下宅部遺跡を中心に瓦塔や住居址が数軒確認されているのみである。丘陵北東部においても同様の傾向がみられ、前出した日向遺跡、宮前遺跡、高峰遺跡などは、住居址数が急激に減少している。

その反面、狭山丘陵北東部には、7世紀後半～10世紀前半まで続く東の上遺跡（西武鉄道所沢駅と西所沢駅との間に広がる所沢市最大の遺跡）が存在する。東山道武蔵路とうさんどうむさしみちと呼ばれる幹線道路を中心とした大規模集落で、住居址は300軒を超え、掘立柱建物も88軒、井戸跡7基を数える、当時の大都市ともいえる拠点集落である。

平成21年度の主な事業報告

1 特別展「酒造りの道具―渡辺酒造寄贈民具展2―」



左上＝看板、右上＝半役、中＝飯割、右下＝暖気、樽左下＝サル

なお、東山道武蔵路は、武蔵国府（府中市）と上野国府（群馬県高崎市）等を結ぶ幅12m程の直線道路で、古代に造られた官道の一つである。

このころの日本の歴史上における大事件として、646年大化の改新、663年白村江の戦いが挙げられ、律令体制が導入・浸透し始める時期だが、その確立・維持を目的として各地の拠点となる都市を計画的に建設した可能性が高い。

拠点集落を構築する必要性から、意識的に周辺地域から人々を集めたのか、物資流通の拠点となりつつある集落に周辺から集まったのかは不明であるが、狭山丘陵のかなりの集落から東の上遺跡周辺に移動していった可能性が高く、“横田田んぼ”周辺には集落を構成するほどの人々がいなくなったことは事実である。

武蔵村山唯一の造り酒屋「渡辺酒造合名会社」より寄贈された酒造関係の貴重な資料の中から「渡辺酒造建物」「酒造道具類」「酒販売具類」を中心に特別展を開催しました。詳細は「平成21年度特別展解説書『渡辺酒造の酒造り』（定価150円）」をご参照ください。

*展示期間：平成21年10月10日～11月29日

2 夏休み子ども展示「星座と伝説」

平成21年度は、ガリレオが天体観測を始めて400年となり、小中学生を対象に天文学の歴史や皆既日食、夏から秋にかけて観測できる星・星座とそれにまつわる伝説などを紹介した。

*展示期間：平成21年7月25日～8月31日

3 子ども体験教室「星の動きを観察しよう」

(1) 期日：平成21年8月29日

(2) 会場：武蔵村山市立歴史民俗資料館・のぞみ福祉園駐車場

(3) 講師：高橋芳弘（昭島天体観測所）

4 文化財見学会「ダイダラボッチ伝説と井戸めぐり」

(1) 期日：平成21年10月24日

(2) 会場：武蔵村山市東部地区

(3) 講師：村山美春（市文化財保護審議会委員）

5 歴史講座「村山の酒造り―江戸後期を中心として―」

(1) 期日：平成21年11月28日

(2) 会場：武蔵村山市立歴史民俗資料館

(3) 講師：寺町勲（市文化財保護審議会委員）

6 自然観察会「早春の鳥たち」

- (1) 期日：平成22年3月13日
 (2) 会場：都立野山北・六道山公園地内
 (3) 講師：梶野嘉穂（日本野鳥の会会員）

(2) 七夕飾り

期間：平成21年7月4日～7月12日

(3) 正月飾り

期間：平成21年12月19日～平成22年1月24日

7 季節展

- (1) 端午の節供展
 期間：平成21年4月18日～5月10日

(4) 桃の節供

期間：平成22年2月6日～3月7日

(以上、敬称略)

8 資料館入館状況

月	区分	開館日数 (日)	利用者数 (人)	市 内		市 外	
				人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
4		28	985	380	38.6	605	61.4
5		29	1,200	402	33.5	798	66.6
6		0	収蔵品移動等による休館期間				
7		29	1,506	727	48.3	779	51.7
8		29	2,157	841	39.0	1,316	61.0
9		28	1,214	507	41.8	707	58.2
10		29	2,630	924	35.1	1,706	64.9
11		28	1,942	691	35.6	1,251	64.4
12		25	725	297	41.0	428	59.0
1		26	909	507	55.8	402	44.2
2		26	898	615	68.5	283	31.5
3		29	908	420	46.3	488	53.7
合 計		306	15,074	6,311	41.9	8,763	58.1

9 資料寄贈者一覧（敬称略）

番号	寄 贈 者	寄 贈 資 料 名	数量(点)
1	岩 沢 勲	柳行李・男巻	2
2	柴 田 栄 一	書籍・航空写真	2
3	橋 元 休	測量機器(トランシット)	1
4	塩 崎 正 計	五月人形・正月飾りほか	18
5	荒 井 明 久	小冊子	1
6	鈴 木 一 男	警防団半纏・任命書	2
7	平 川 玲 子	雛人形一式ほか	28
8	渡 辺 善一郎	屋敷山遺跡等表面採集石器一式	172
9	波多野 幸 一	中藤村共有地人名簿	1
10	加 藤 善一郎	「吟醸」清酒吟雪（モノレール開通記念）ほか	2
11	清 水 抄 子	書籍	1
12	東京都水道局羽村取水場	軽便鉄道レール	2
13	荒 幡 平 作	ビデオレコーダー一式	7
14	澤登文雄他25名	戦争関係資料一式	890

狭山丘陵南麓西側の自然（植物を中心として）

武蔵村山市三ツ木に生まれ育って、こよなく狭山丘陵を愛する青年？が、一念発起して、植物の花を中心とした自然の様子をカメラに収め始めました。彼の名は吉田政一君。はじめて彼が歴史民俗資料館の窓口に現れたのは、小学校4年生くらいではなかったでしょうか。手には数点の土器片が握られていて、その中に「縄文時代早期条痕文系土器の破片」が含まれていました。そうです、考古学ボーイだったのです。この時代の土器は、この破片以外に武蔵村山市内からは見つからず、大変な発見です。高校を卒業するまでは、遺跡の発掘作業にも参加するなど、よく資料館に

顔を出していました。その後、20年間音信不通でしたが、平成19年の資料館主催「自然観察会」で再会しました。数年前に自宅に戻り、自宅近くの裏山（狭山丘陵）を散策しながら、植物の花をデジタルカメラに収めているとのこと。素人写真ではありますが、見応えのある写真も多いことから、ここに紹介することにしました。植物名については資料館で確認していますが、間違いや不明な点がありましたら、資料館までご連絡ください。なお、撮影地点につきましては、乱獲等の危険から割愛させていただきました。

武蔵村山市立歴史民俗資料館 高橋



ホタルブクロ 2010.6.中旬撮影



ウmanosukusa 2010.7.初旬撮影



ギンリョウソウ 2010.6.中旬撮影



ノカンゾウ 2010.7 初旬撮影



オオムラサキ(中央) カブトムシ(上)
カナブン(下) 2010.7.初旬撮影



ヤマユリ 2010.7.中旬撮影



ゲンノショウコ 2010.8.初旬撮影



ナンバンギセル 2010.8.下旬撮影



ヒヨドリバナ 2010.8.中旬撮影



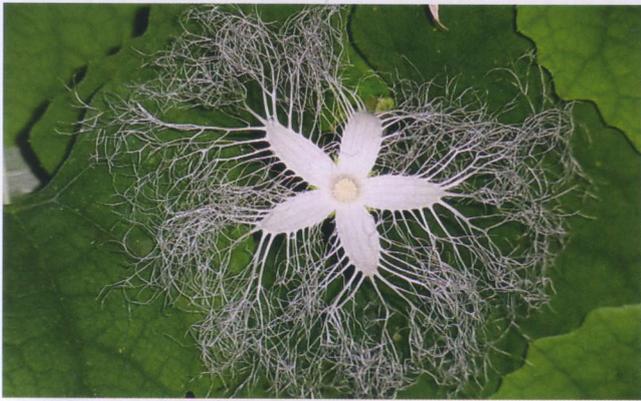
イネの穂 2010.8.中旬撮影



ツルマメ 2010.8.下旬撮影



ツリガネニンジン 2010.9.上旬撮影



カラスウリ 2010.9 上旬撮影



シロオニタケ(腹菌目、未同定) 2010.9.中旬撮



ツリフネソウ 2010.9.中旬撮影



カセンソウ 2010.9 下旬撮影



フクロツチガキ 2010.9.中旬撮影



アズマヤマアザミ 2010.10.中旬撮影



ササリンドウ 2010.11.上旬撮影



カントウカンアオイ 2010.12.中旬撮影

発行：武蔵村山市立歴史民俗資料館 〒208-0004 東京都武蔵村山市本町 5-21-1
 TEL 042 (560) 6620/FAX 042 (569) 2762 Mail アドレス mmc-reki@blu.m-net.ne.jp
 HPアドレス <http://www.city.musashimurayama.tokyo.jp/shiryokan.html>